

編集後記

今年は、いろいろと思いがけない出来事が起る年ようです。本年5月に衆議院議員の愛知和男先生が松本歯科大学の第4代理事長に就任されたことは、本学会にとりましても大変喜ばしいことでありますが、その愛知和男先生の所属した自由民主党羽田派が、6月に宮沢内閣不信任決議案に賛成して自由民主党を離脱、直ちに新党を結成し、続く7月の衆議院選挙に大勝するや否や、日本社会党や公明党などと連立政権を組んで8月には連合政権を発足するという、あっと言う間の政権交代が行われました。日本経済のバブル崩壊後の不況は相変わらず続いているが、円高が進行して昨年末1ドル125円だった円は、8月には100円近くなり、不況をさらに深刻化しています。自然現象の方でも、7月には北海道南西沖地震で奥尻島で大災害を発生しましたし、鹿児島では台風が大雨を伴って何度も来襲して大災害が続出しましたし、梅雨明けが何時あったのか分からないような雨天続きの夏のため、全国的な日照不足と低温となり、信じられないような稲作の不作が起きています。

松本歯学の方も、前号まで順調に投稿されていた原稿は、今回は締切日を1ヶ月過ぎても一編しかなく、已むなく8月下旬まで締切日を延長するという事態が発生しました。夏休みに入ると、さすがに論文を執筆される先生が多いとみえて、9月8日によりやく編集会議が開ける状態になりましたが、雑誌が出来上がるのは相当に遅くなりそうです。どうしてこのような事態が起ったのか理解に苦しみますが、これも今年の特徴の一つかも知れません。

本号は、総説を削って、“歯学教育に関するモスクワシンポジウム”を特集として掲載しました。一昨年の大学設置基準の大綱化に伴って、日本国内でも近年大学教育のあり方がいろいろと論議されていますが、そのシンポジウムの内容を記録として会員諸氏にお見せ出来ることは大変結構なことではないかと考え、本号に掲載することと致しました。英文で読みにくいかも知れませんが、興味のある方の御一読をお薦め致します。

(野村 浩道)

松 本 歯 学 第19巻 第2号 (非売品)

1993年8月25日 印刷 1993年8月31日 発行

編集兼発行者 小 林 茂 夫

発 行 所 松本歯科大学学会

399-07 塩尻市広丘郷原1780 電話 0263-52-3100

印 刷 所 電算印刷株式会社

390 松本市筑摩1-11-30 電話 0263-25-4329